「琵琶湖周辺現地視察のご案内」

「生活者目線からたどる水と人の環境史～生活環境主義発祥の琵琶湖畔村落を訪ねて」

案内者：前滋賀県知事 嘉田由紀子、水と文化研究会事務局長 小坂育子

＜趣旨＞

1982 年の夏、琵琶湖と人びとの環境史解明を生活者目線から探ろうと、開所直後の琵琶湖研究所を母体として社会学・民俗学・人類学などの研究者が合同調査を始めた。マキノ町（現高島市）の海津・知内では、水道導入前の湖と人びとの濃密な関係に根差した生活文化の記憶が活きていた。湖水や川水を直接に飲み水に利用する生活文化や、生業としての漁業権争いなどに加えて、頻発する水害への地域での自治的対応など、近代技術が導入される前の人びとの暮らしの知恵が記憶・伝承されていた。ここから「生活環境主義」は生まれた。

その後 30 年間にこれらの伝統はどう変わったのか？　それが今、そして今後どう活かされようとしているのか。特に 3.11 の大震災での福島原発事故での地元住民の受難は、若狭湾岸に近接する「被害地元」高島の地では決して他人事ではない。自然とともに暮らす人びとだからこそ、歴史と文化にこだわりながら、これからの水と人間のかかわりの未来に安心を埋め込む実践を追求したいと願う。

また、徹底的にローカルな琵琶湖固有の生活文化と水信仰を支える水文化は、地球規模からみても価値あるものとして、2015 年 4 月に「祈りと暮らしの水遺産」として日本遺産に指定された。

この現地視察（エクスカーション）では、琵琶湖畔の荒ぶる波風をさける石積みに寄り添うように密やかに生きる橋板文化を守る海津の町、 250 年の水との闘いや漁業の歴史を記録する「村日記」を受けついできた知内地区、そして、今も家いえに湧きでるカバタを守る針江地区を訪問し、住民の皆さんから直接にお話を聴いていただきたい。その中で、近代技術の機能的価値と、自然のもつ存在価値に加えて、人びとの生活の中に生きるふれあい価値、文化的価値について、皆さんとともに共有して未来に受け継ぐ知恵について考えていただきたい。

＜現地視察（エクスカーション）の行程案＞（＊最終的に時間など一部変更もあるかもしれません。）

〇日時：2015 年 10 月 4 日（日）

〇参加費：貸切バス代＋施設見学料＋昼食代等を込みで、一人 5000 円（当日徴収いたします。）

・9 時：　貸切バス（定員 40 名）、「びわこクラブ」（滋賀県大津市北小松 20-8）出発

・9 時 10 分頃：　JR 湖西線　北小松駅（JR 京都駅から約 45 分）経由

・10 時～11 時：　旧マキノ町海津地区訪問、石積み湖岸・橋板・湧水、「ふなずし」の魚治と「竹生島」の吉田酒造訪問、お土産買い物

・11 時～12 時：　旧マキノ町知内地区で、270 年間の村記録を読み解く歴史研究者と知内地区住民の古文書解読勉強会に参加

・12 時 30 分～13 時：　旧新旭町針江地区で「カバタ弁当」の昼食

・13 時～14 時：　針江地区内のカバタ訪問、住民による各戸案内

・14 時過ぎ頃：　JR 湖西線　新旭駅（JR 京都駅までは約 1 時間）、現地解散